

# 岡山県金融経済動向

## 1. 概況

- 県内景気は、なお足踏みの状態にあるが、一部に弱めの動きがみられている。
- すなわち、最終需要面をみると、輸出が増加しているほか、設備投資も堅調に推移している。一方、個人消費は、弱めの動きが広まりつつある。また、公共投資、住宅投資は低調に推移している。こうした中、地場企業の企業収益が足もとでは減益幅を拡大する見込みにあり、景況感も一段と悪化している。
- 県内主要製造業の生産活動は、概ね横ばい圏内で推移している。  
雇用・所得環境をみると、労働需給が徐々に緩和していく中で、雇用者所得は概ね横ばい圏内にある。

## 2. 実体経済

### (1) 個人消費

- 個人消費をみると、弱めの動きが広がりつつある。  
すなわち、9月の販売動向をみると、百貨店売上高は、雑貨は堅調なもの、身の回り品や衣料品が不振であったことから、前年を下回った。スーパー売上高も、生活用品や衣料品などが落ち込んだため、前年を下回った。また、乗用車販売では、小型車や普通車に加え、軽自動車も落ち込んだことから、全体では2か月連続で前年を下回った。この間、旅行取扱高は、海外旅行、国内旅行ともに低調であったことから、前年を下回った。  
一方、家電販売では、映像関連商品を中心に、堅調に推移している。  
このほか、主要観光地への入り込みは、県外観光客の減少などから、前年を下回っている。

## (2) 設備投資

- 県内企業の設備投資は、堅調に推移している。

すなわち、9月短観調査における20年度の設備投資計画（地場・出先企業計）をみると、製造業では、素材業種が鉄鋼を中心に、加工業種が輸送用機械、食料品を中心に増加することから、全体でも前年を2割弱上回る計画となっている。また、非製造業でも、電気・ガス、運輸、小売などを中心に増加計画となっている。この結果、全産業ベースでは、高水準である前年を1割強上回る計画となっている。

なお、前回調査（6月調査）と比較すると、非製造業は、運輸を中心に小幅の上方修正となったものの、製造業では、素材業種、加工業種ともに下方修正となったことから、全産業ベースでも下方修正となった。

建設投資の先行指標である着工建築物床面積（非居住用〈7～9月〉）は、前年が改正建築基準法施行の影響により落ち込んだ反動もあって、前年を上回っている。

## (3) 住宅投資

- 県内住宅投資を新設住宅着工戸数でみると、持家やマンションを中心に需要が弱含んでいることもあって、低調に推移している。9月は、持家、貸家、マンションのいずれも前年を下回った。

## (4) 公共投資

- 公共投資は、低調に推移している。発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、9月は、「県」、「市町村」で前年を上回ったものの、「国」、「独立行政法人等」、「その他の公共的団体」が前年を大幅に下回ったため、全体では前年を下回った。

## (5) 輸 出

- 輸出は、増加している。

すなわち、9月の県内輸出（通関実績）をみると、アジア、中東欧・ロシア、中東向けを中心に前年を大幅に上回った。

## (6) 生産・出荷・在庫

- 8月の県内鉱工業生産指数（直近計数）の季調済前月比は、鉄鋼、食料品、電子部品・デバイスを中心に上昇したことから、全体では2か月連続の上昇となった。

この間、出荷指数（季調済前月比）は、輸送機械、電子部品・デバイス、鉄鋼を中心に上昇したことから、全体では2か月振りの上昇となった。また、在庫指数（前年同月比）は、輸送機械、電気機械、石油・石炭製品を中心に、4か月振りの低下となった。

- 県内主要製造業の最近の生産動向（10業種、付表参照）をみると、造船では、豊富な受注残を背景に高操業を継続しているほか、自動車でも、輸出向けを中心に高操業を続けている。また、工作機械は、企業間でばらつきがみられるものの、全体としては高操業を続けている。鉄鋼は、堅調な内外需要を背景に、高めの生産を続けているほか、耐火物でも、大手メーカーを中心に高めの生産を続けている。この間、石油化学は、内外需要が落ち込んでいるため、操業度を一段と低下させている。電気機械では、携帯電話向け部品等の落ち込みを背景に、生産が弱含んでいる。石油精製は、需要が落ち込む中、一部先で定期修理を実施しているため、生産水準が低下している。このほか、繊維では、安価輸入品との競合や海外への生産シフトなどから、全体として低水準にある。また、農機具は、生産が持ち直している。

## (7) 雇用・所得

- 労働需給面をみると、9月の有効求人倍率は、高水準となっているものの、徐々に低下している。一方、8月の所定外労働時間は、前年を上回った。雇用面をみると、8月の常用労働者数は、僅かながら前年を上回った。この間、9月の解雇者数、雇用保険受給者数は、低めの水準となっている。このように、県内の雇用関連指標は、足もとでは弱めの動きがみられる。

賃金をみると、8月の一人当たり現金給与総額は、僅かながら前年を下回った。

この結果、雇用者所得は、概ね横ばい圏内にある。

## (8) 物 価

- 9月の岡山市消費者物価指数（平成17年基準、生鮮食品を除くベース）は、生鮮食品を除く食料、光熱・水道、交通・通信などで前年比上昇率が高いため、全体でも高めの前年比上昇率となっている。

### (9) 企業倒産

- 9月の県内企業倒産（東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上）をみると、倒産件数は前年を上回ったが、負債総額は、前年の大型倒産の影響で前年を下回った。

## 3. 金 融

### (1) 実質預金等

- 9月の県内実質預金をみると、個人預金は前月並みの前年比プラス幅となったものの、法人預金のプラス幅が拡大したほか、公金預金のマイナス幅が縮小したことから、実質預金全体の伸び率は上昇した。

なお、地元10行庫の預り資産をみると、投資信託の伸び率が鈍化しているものの、保険商品は引き続き高い伸び率となっている。

### (2) 貸 出

- 9月の県内貸出をみると、地公体向け、個人向けが前年比伸び率を拡大させたものの、企業向けが前年比マイナスに転化したことから、貸出全体の伸び率も前年比マイナスに転じた。

### (3) 貸出約定平均金利

- 9月の新規貸出約定平均金利（総合ベース＜速報値＞）は、前月比上昇した。また、ストック金利（同＜速報値＞）も、前月比上昇した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707 岡山市丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111 (代表)

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

## 主 要 製 造 業 の 生 産 動 向

業 種	足 も と の 動 向
自 動 車	輸出向け完成車を中心に、高操業が続いている。 国内向け生産は、小型車で新型車投入効果の剥落などから減少しているものの、軽自動車では新型車投入や他社向けOEM生産の増加などから、生産水準を引き上げている。一方、輸出向け生産は、KDが減少しているものの、完成車はロシア、中東、欧州向けを中心に堅調に推移している。
造 船	豊富な受注残を背景に、高操業が続いている。 造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンの受注が堅調に推移しており、高操業を続けている。
石油精製	需要が落ち込む中、一部先で定期修理を実施しているため、原油処理量は大幅に減少している。 製品別にみると、ナフサは定期修理によりやや低めの生産水準となっている。ガソリンは、需要が伸び悩んでいるため、やや低めの生産水準となっている。軽油は、外需の落ち込み等を背景に一部先で減産を行っているため、生産水準が低下している。灯油留分は、灯油が燃料転換の進捗や暖冬予想もあって、弱含んでいるものの、ジェット燃料は輸出向けの増加から堅調に推移しているため、高めの生産水準となっている。一方、重油は、生産量が減少傾向にある。
石油化学	内外需要が落ち込んでいるため、生産水準は一段と低下している。 製品別にみると、ポリエチレンでは、需要に弱さがみられるため、やや低めの生産水準となっている。プロピレンでは、自動車向けを中心に需要が堅調なことから、高めの生産となっている。一方、スチレンモノマー、ポリスチレンは、国内、海外ともに需要が落ち込み、採算も悪化しているため、生産水準を一段と引き下げている。
鉄 鋼	粗鋼生産量は、堅調な内外需要を背景に高水準を続けている。 製品別の動向をみると、薄板類は、自動車・家電向けの高付加価値品を中心に需要が好調であり、全体としては高水準の生産となっている。厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。形鋼類は、高付加価値品や輸出向け汎用品を中心に、高めの生産となっている。棒鋼類は、建設向けで需要が落ち込んでいるものの、自動車向けが好調に推移しているため、全体としては高めの生産水準となっている。
耐 火 物	大手メーカーを中心に高めの生産が続いている。 大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカー等からの受注が堅調に推移している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続いているものの、需要が増加しているため、緩やかに持ち直している。
電気機械	携帯電話向け部品等の落ち込みを背景に、弱含んでいる。 製品別にみると、電子部品は、液晶関連が比較的堅調な生産を続けているものの、携帯電話向けやデジタルカメラ向けで生産水準を引き下げているほか、スイッチでも、携帯電話向けで生産水準を引き下げている。この間、デジタルビデオカメラは、新製品投入によって生産が増加している。
織 維	全体としては低水準の生産が続いている。 製品別にみると、綿織物、合繊織物、ジーンズは、安価輸入品との競合などから、生産量は減少している。また、作業服は、海外拠点への生産シフトを背景に、月々の振れを伴いながら、低調な生産が続いている。一方、学生服は、少子化の影響によって市場は長期的には縮小傾向にあるものの、足もとの需要は安定しており、生産水準は横ばいとなっている。
工作機械	企業間でばらつきがみられるものの、全体としては高操業が続いている。 NC旋盤、MC（マシニングセンター）ともに、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、全体としては高操業を続けている。もっとも、国内外で先行きの景気情勢に不透明感が強まる中、新規受注については弱めの動きとなっている。
農 機 具	生産は持ち直している。 製品別にみると、コンバインで、需要期に入ったこともあって生産が持ち直しているほか、携帯用刈払機では、一部の先で豪州を中心とした海外向けが増加しているため、全体の生産水準は高めとなっている。もっとも、末端需要が依然として低迷していることから、先行きについては慎重な見方が多い。